

飛躍

森町立旭が丘中学校 第3学年
学年通信 第23号
2020年10月 5日(月)
文責 太田 雄司

2学期中間テスト終了！！

10月1日(木)に2学期中間テストが行われました。受検生にとって、とても重要で厳しい戦いが待っている2学期。高等学校の入試では、2学期末の9教科の学習成績が選抜資料として用いられます。その成績に大きく関わる定期テスト。その3分の2がこれで終わったこととなります。すでにテストが返却されている教科もあると思いますが、納得のいく結果が得られているでしょうか？結果を見て、どのように感じているでしょうか？1学期期末テストの反省やそこから明らかになった課題を生かしたでしょうか？夏の学習の成果を発揮することができたでしょうか？1学期期末テストから約3か月が経過したわけですが、今回のテストでお子さんは、そのとき以上の取り組みができていたでしょうか？受検生としての「**自覚・意識・覚悟**」で取り組むことができていたでしょうか？



「**テストがあるから勉強する**」という考え方は受検生としては不十分です。しかし、何度も言っているように「**定期テストの勉強は最大の受検勉強**」です。そして定期テストの勉強のベースとなるものは、毎時間の授業となります。つまり、受検という大きな勝負に自信をもって挑むためには、受検を見据えながら、「**一つのテストに十分な準備で臨む**」そして、そのためにも「**目の前にある毎時間の授業や毎日の家庭での学習に全力で取り組む**」ことが大切になります。受検当日まで地道に努力を積み重ねる継続的な学習を行うことで、確かな学力を身に付けていけるように指導していきたいと思います。御家庭でも声掛けと励ましをお願いします。

☆受検は団体戦！？



「**受検は団体戦**」とよく言われます。「**全員で受検に向けて頑張る**」といった言葉もよく聞きます。しかし、実際には、受検当日に一つの問題を団体で解いていくことはありません。仲間と協力して答えを出すこともありません。そう考えると受検は自分一人で勝負するものです。自分自身は生徒に対して「**受検は個人戦・個人プレー**」「**全員が受検に向けて頑張る**」という表現をします。では「**団体戦**」「**全員で**」という考え方は間違っているのかと言えば、間違っていないと思います。正しい考え方だと思います。柔道や卓球などの個人競技にも学校対抗や国対抗等の

「**団体戦**」があります。それらは1対1の試合、つまり「**個人戦**」を何試合か行い、その勝敗数で「**団体戦**」の勝敗を決定します。試合に出場する個人がきっちりと戦って勝利しないとその団体は勝利できないのです。ラグビーにはスクラムというプレーがあります。簡単に言うと、8人の選手が固まって相手の8人と押し合うプレーです。単純に8人で前に押しているだけのように見えますが、実際には膝の角度や足の位置、体の高さや押す方向等がチームによって細かく決められています。その決められたことを、スクラムを組んでいる8人の選手一人一人がしっかりと意識して実践しないと相手を押すことができず、ボールは相手に奪われてしまいます。一人でも違うことをしたり、力を抜いたりした瞬間に簡単にやられてしまうのです。団体と言っても結局は個人の集まりです。集団を構成する個人個人がまず自分のやるべきことに全力を出し切らないと、集団の力が高まることはありません。よい結果を収めることはできません。受検も同じことです。目標とする進路先は違っても、まずは個人個人が自分の進路について真剣に考えることです。そこに向かって毎日の生活や学習に全力で取り組むことです。全員がそんな姿になれば、学年全体が受検生としてのよい環境・雰囲気となり、お互いに刺激し合うことで力を高め合うことができます。だからこそ、個人が高い意識をもって行動・実践をしなくてはならないのです。



さて、今年度も後半に入り、進路について現実的に考えていく時期になってきました。先日文書にてお知らせした通り、10月19日(月)～30日(金)まで進路面談(希望制)を行います。面談では、「**受検する学校**」について、生徒・保護者・学校の三者で話し合いたいと思います。学校は進路に関わる情報を提供し、助言をしますが、最終的な決定は御家庭がすることになります。面談を希望するかしないかに関わらず、中間テスト等の結果を踏まえた上で、進路について御家庭で話し合ってくださいようお願いいたします。